



2012年8月1日放送

印象に残る症例①

横浜元町女性医療クリニックLUNAグループ 理事長 関口 由紀

私の専門領域は、女性泌尿器科です。女性泌尿器科では、尿漏れ、頻尿、膀胱の痛み、膀胱や子宮の下垂感などの症状を起こす、腹圧性尿失禁・過活動膀胱・骨盤臓器脱・間質性膀胱炎などの女性の尿のトラブルを専門的に診察します。

私の忘れられない患者さまの1名は、78歳の女性Aさんです。主訴は尿漏れです。26歳と28歳の時に自然分娩。特に出産時のトラブルはなかったそうです。2人目の妊娠中と出産1年目くらいまでは尿漏れが起こっていたとのこと。しかしこの尿漏れは、自然によくなり、子育てに忙しかったので、特に気にとめることはなかったそうです。

上の子が小学生になり、ある日みんなで縄跳びをしようということになったそうです。ひさしぶりにAさんが縄跳びをしてみると、思いがけず外からわかるくらい大量の尿がもれてしまいました。この時は相当のショックを受けて、その後Aさんは縄跳びを控えるようになりました。

さらに40歳ごろから咳やくしゃみをする、あきらかに尿漏れするようになり、お出かけする時はパットを使用するようになったそうです。まだ月経もありましたから月経の時とお出かけの時の両方でパットを使用しなければならなくなり、陰部がかゆくなり苦しんだそうですが、市販の塗り薬で対応したそうです。

45歳くらいからは、すこしずつ頻尿も自覚しました。それまでの排尿回数は、起きている間5回、寝ている間は起きませんでした。48歳くらいの時は、起きている間に10回くらいトイレに行くようになり、夜間も必ず1回トイレに起きるようになりました。ホットフラッシュ、不眠、落ち込みなどの症状も出現し、とてもつらい更年期でしたが、更年期はだれでも迎える自然なこととあきらめ、耐えしのびました。

51歳で閉経すると、更年期症状はスッカリよくなりました。しかし頻尿と尿漏れはよくなりません。

55歳の時、坂道を下っている時などに大量に尿がもれるようになり、思いきって近くの泌尿器科クリニックを受診しました。しかしそのクリニックの医師は、尿漏れや頻尿は年

のせい、尿検査は正常だから気にしなくてもよいと言って取り合ってくれませんでした。尿漏れのことは、家族や友人にはなかなか相談できないどころか、医師も取り合ってくれないことがわかり、Aさんは自分でなんとかしよう決心します。タオルを使用した大量にもれても大丈夫な失禁パンツを自ら作成し、これを日に何度か交換することで腔のかぶれを克服。これを履いてバス旅行にも行きました。時々洗濯物の多さに情けなくなることもありましたが、死ぬ病気ではないし、知能が低下したり、歩行できなくなったりする病気でもない、自分を奮い立たせました。

68歳まではとても元気に過ごしていたAさんですが、この年、腰椎の圧迫骨折を患い3か月間寝込んでしまいます。再び歩けるようにはなりましたが、長時間歩くと腰が痛くなり、尿漏れの量もさらに増加、体力が衰えたのかすぐかぜを引くようになったので、ウィルスに感染しないように、あまり外出をしなくなってしまうました。テレビだけが友達の日々が10年近く続きました。

78歳の時に、新聞の折り込みに尿もれの講演をする区の泌尿器科講演会が開かれることを知り参加しました。その講演会のテーマは、男性の前立腺癌、前立腺肥大症そして女性の頻尿・尿失禁でした。そして女性泌尿器科という新しい診療科があることを知りました。Aさんは、最初の泌尿器科でいやな思いをしてから約40年かかってやっと女性泌尿器科外来にたどりついたのです。

Aさんは、かなり重症の腹圧性尿失禁で、過活動膀胱を合併していました。腹圧性尿失禁の治療は、骨盤底筋体操、薬内服、電気・磁気刺激療法・手術を組み合わせで行います。Aさんは、まずトレーナーの指導を受けながら骨盤底筋体操を練習する個別骨盤底筋トレーニング指導を受けました。骨盤底筋の筋力を増強して、尿漏れを治療するのです。のみ薬に関しては、腹圧性尿失禁の薬は、動悸が出現したためめず、頻尿を改善する過活動膀胱治療薬を処方されました。1か月ごとの指導にまじめにとりくみ、家で一生懸命練習した甲斐あって、3か月目には尿失禁量は1日100mlから20mlへと劇的改善し、排尿回数も1日12回から8回に減少し、ほぼ正常化しました。しかし季節が冬となり、気温が急激に低下してくると、冷えたためか再び失禁量が1日50mlに増加してしまっただけです。一生懸命骨盤底筋体操をしているのに、失禁量が増えてしまったことにAさんは、落胆をかくしきれないようでした。

この時診察でも、あきらかに失禁の症状が悪化していたので、手術をおすすめしました。尿失禁手術は、20年くらい前とくらべると、とても簡単になっており、ご高齢の方でも日帰り手術も可能だからです。しかし尿失禁は良性疾患なので、どの治療を選択するかの最終決定は、あくまでも患者さんが行います。それで次回までに、手術をするかどうかを考えてくるようお願いして、診察を終了しました。ところでAさんは、冬場になると、いつものどが痛くて、とても体を大事にしているにもかかわらず、すぐ鼻水がでたり咳がでたりという症状が続いていました。この時ものどの痛みが辛いということでしたので、私は、この時高齢者の万年かぜを予防できるツムラ麻黄附子細辛湯7.5gを処方しました。

1か月後の診察日、Aさんの表情が比較的明るいので、気持ちが決まったのだと思って、“手術の決心がつかしましたか？”と私は、Aさんに質問しました。するとAさんは、“先生今月は、とても調子がいいんですよ。ほとんど尿漏れが気にならなくなりました。”との答え。体調もとてもよく、のどの痛みがほとんどないとのこと。ツムラ麻黄附子細辛湯が自分の体にはとてもあっていて、たぶん尿もれが減ったのもこの薬の効果だと思うとの感想でした。

確かに、あいかわらず寒さは続いていまして、前回と今回で違うのは、万年かぜ予防の麻黄附子細辛湯を追加したことだけです。考えてみれば尿道を締める薬であるエフェドリンは、麻黄から生成されます。同じかぜ薬で、麻黄を含有する葛根湯は、尿失禁の治療薬として漢方業界では有名です。しかし葛根湯の問題点は、動悸や不整脈などの循環器系の副作用があるために、高齢者の長期の内服には適さないとされていることです。しかし麻黄附子細辛湯は、高齢者の長期服用が可能な製剤なのです。さらに附子は、膀胱の異常収

縮を取る可能性があることが、牛車腎気丸の研究などで指摘されています。

一般的に副作用がでないようなソフトな薬は、効果もそれなりな薬が多く、高齢者の長期服用が可能な麻黄附子細辛湯が尿失禁に対してそんなに効果的だとは、それまで思っていませんでした。

Aさんは、現在も麻黄附子細辛湯を飲みながら、骨盤底筋体操を続け、再び外出するようになっていきます。先日もひさしぶりに娘といっしょにバス旅行に行き、楽しかった話をお聞きしました。

現在本当に麻黄附子細辛湯が、腹圧性尿失禁に有効かどうか、多くの患者さんに試していただき臨床研究中です。どうやら若い人より高齢者の方のほうが、尿漏れに関しても効果が高いようです。高齢者に特化した、感染予防と尿漏れ予防を同時にできる方剤として、これからの高齢社会日本で注目をあびる方剤になることを期待して、これからも研究していきたいと思っています。